

【熊本 S.J.C.D.例会 抄録】

演題 歯科矯正医と連携した一症例

演者名 松下哲也

日付 2008年8月26日

Key Words

- 1) 再評価
- 2) ポーセレン・ラミネート・ベニア
- 3) 支台歯形成

抄録

23歳女性で、初診は2003年2月、主訴は歯列不正です。歯科矯正医より、エナメル質形成不全のためブラケットが付けられないと、矯正前処置の依頼を受けました。

さらに、便宜抜歯、カリエス治療、歯周治療をして、歯科矯正医のほうへ送りました。

矯正治療中は、月に一度のブラークコントロールを行い、経過をスライドに残しました。

矯正治療もラストステージになり、「今後、補綴をすべきか、経過観察すべきか」ここまでが、2005年の例会で発表しました。

その後、バーティカル・ストップの確立と、審美回復のためPFMとポーセレン・ラミネート・ベニアで修復した症例を再度、報告します。諸先生方のご意見、ご指導を宜しく申し上げます。